

郷土の海産動物 No. 18

伊藤 十 治*

90. カイメンガニ *Chlorinoides longispinus* (DE HAAN 1839)

節足動物 Arthropoda, 甲殻上綱 Superclass Crustacea PENNANT 1777, 軟甲綱 Class Malacostraca LATREILLE 1806, 十脚目 Order Decapoda LATREILLE 1803, 抱卵亜目 Suborder Pleocyemate, BURKENROAD 1963, 短尾下目 Infraorder Brachyura LATREILLE 1803, 尖頭群 Section Oxyrhyncha LATREILLE 1803, くもがに上科 Superfamily Majodea SAMOUELLE 1819, くもがに科 Family Majidae SAMOUELLE 1819, けあしがに亜科 Subfamily Majinae SAMOUELLE 1819, かいめんがに属 Genus *Chlorinoides* HASWELL 1880, [= *Acanthophrys* A. MILNE EDWARDS 1865] の一種。

けあしがに亜科には、日本産が次の7属ある。〔酒井恒(1976)〕

1. Gen. *Majella* ORTMANN 1893

くわがたけあしがに属…1属1種で相模湾産の記録あり。

2. Gen. *Maja* LAMARCK 1801

けあしがに属…日本産が7種。

3. Gen. *Leptomithrax* MIERS 1876

こしまがに属…日本産が3種。

- コシマガニ *Leptomithrax edwardsi* (DE HAAN 1839) ……日本固有種で福井・新潟県の沿岸産(日本海側)。

4. Gen. *Schizophroida* SAKAI 1933

しもだのこぎりがに属……日本産が2種。

5. Gen. *Schizophrys* WHITE 1933

のこぎりがに属……日本産1種。

6. Gen. *Cyclax* DANA 1851

まるみのこぎりがに属……日本産1種。

7. Gen. *Chlorinoides* HASWELL 1880

かいめんがに属……本種を含む日本産が5種。

かいめんがに属での日本産5種類は次のようである。〔酒井恒(1976)〕

1. ハリカイメンガニ *Chlorinoides harmandi* (BOUVIER 1906)

本属中では、甲幅がせまく長みをおびた種類。甲長は27mm, 甲幅は17mmぐらい。日本固有種, 胃域に前後2本, 心域に左右2本, 鰓域に1本のとげがある。腸域と甲らの後縁のとげは小さい。はさみ脚の長節末端に長いとげが1本ある。水深20~180mに生息, 相模湾, 紀伊半島沿岸に分布。



カイメンガニ (中澤)

* 〒910-21 福井市東郷中島町10-12

2. オオカイメンガニ C. *aculeatus*
(H. MILNE EDWARDS 1834)

本属中で最大のカニ(甲長47mm, 甲幅35mm), 額のとげは強大で甲長の1/2よりもわずかに長く, 前半はつよく外方に曲がり, 先が鋭い。甲面のとげは胃域に2本, 心域と腸域に1本ずつ, 鰓域に2本ある。歩脚には剛毛が密生している。エビ網にかかる。水深10~50mの岩礁底に生息する。相模湾・インド洋・オーストラリア沿岸に分布する。



オオカイメンガニ(左側は除去)
(酒井)

3. トサカイメンガニ C. *tosaensis* SAKAI 1969

とげが著しく長く鋭くとがっている種類。甲長が21mm, 甲幅17mmぐらい。甲の鰓域は幅広くふくれている。抱卵期は5月頃。底引き網にかかる。水深120~200mの砂泥底に生息する。土佐湾でしかみつかっていない。

4. ヒメカイメンガニ C. *brevispinosus* YOKOYA 1933

甲の輪郭は長みをおびた三角形にみえる。甲長は19.5mm, 甲幅は14.5mmぐらい。日本固有種。額のとげは根元からまっすぐに広く開いている。水深85~219mの砂・貝がらのある海底に生息する。相模湾・土佐湾に分布する。

5. 本種 C. *longispinus* (DE HAAN 1839)

カイメンガニという和名は, 本種が常にかいめんや塵埃を体一面につけているので名づけられた。この和名は, 内田谷津動物分類名辞典 中山書店(1972)によると次の2種類がある。

1. カイメンガニ *Acanthophrys longispinus* (同書497頁)

見事に擬装するカニ, 額棘は強く, 左右に開き, 甲面および鰓域の棘は先端がまるい, 東京湾以南の各水域, インド沿岸にも分布, 本属はほかに日本産5種ほどを扱う。

2. カイメンガニ *Parthenope horrida* (同書498頁)

大型のヒンガニで甲面は小隆起や凹みで岩石の観を呈す。紀伊半島以上南, ハワイから紅海にまで分布。

しかし 酒井恒(1976): Crabs of Japan and The adjacent seas 249頁, 283頁には, 前記の2種類について, 次のように改定している。

1. *Acanthophrys longispinus* BALSS 1924 カイメンガニ

本種の最初記載学名は, *Maja*(*Chorinus*)*Longispinus* DE HAAN 1839 で, シーボルト著の日本動物誌上にもこの学名で記載されている。[シーボルト・ファウナ・ヤポニカ解説, 講談社(1975) 80頁]

そこで本種の学名がどのように変遷してきたかを示すと次のようになる。

Paramithrax Coppingeri HASWELL 1822

P. (*Chlorinoides*) *Longispinus* var. *bituberculata* MIERS 1844

Chorinus longispina ADAMS & WHITE 1848

Chlorinoides longispinus MIERS 1886

Paramithrax (*Chlorinoides*) *longispinus* ALCOCK 1895

Acanthophrys longispinus var. *spinossissima* BOUVIER 1906

Paramithrax (*Chlorinoides*) *longispinus* var. *bispinosus* LAURIE 1906

Acanthophrys longispinus BALSS 1924

Chlorinoides longispinus GRIFFIN 1966

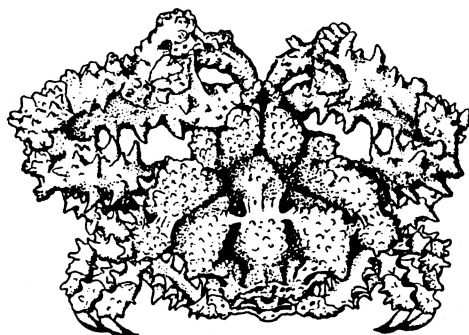
2. *Parthenope horrida* FABRICIUS 1798 カルイシガニ (カイメンガニ)

カルイシガニの学名変遷を示すと次のようになる。

Cancer horridus LINNAEUS 1758

Parthenope horrida FABRICIUS 1798

Daldorfia h. RATHBUN 1904



カルイシガニ (中澤)

カルイシガニはひしがに科 *Parthenopidae* MIERS 1879, ひしがに亜科 *Parthenopinae* MIERS 1879, かるいしがに属 *Daldorfia* RATHBUN 1906の一種である。かるいしがに属には、日本産が次の6種類記載されている。〔酒井 恒(1976)〕

1. *Daldorfia horrida* (LINNAEUS 1758) カルイシガニ
2. *D. rathbuni* (DE MAN 1902) ラスバンカルイシガニ
3. *D. semicircularis* (FLIPSE 1930) ヒメカルイシガニ
4. *D. investigatoris* (ALCOCK 1895) インドカルイシガニ
5. *D. spinossissima* (A. MILNE EDWARDS 1862) ハリカルイシガニ
6. *D. triangularis* SAKAI 1974 サンカクカルイシガニ

カルイシガニは、大型(甲型76mm, 甲幅102mm)のカニ。横に広い菱形の観がする。額は短く幅広く厚みがある。まるで軽いを思わせる凹凸のカニである。はさみ脚は、巨大で左右の大きさはちがう。水深35~200mの岩礁底に生息するが、サンゴ礁の低潮帯から水深100mにも生息する。エビ網にかかる。紀伊半島以南, ハワイ, 南太平洋, インド洋, 紅海, アフリカ東岸に分布。

かいめんがに属の属名変遷は、次のようになる。〔酒井 恒(1976)〕

Acanthophrys A. MILNE EDWARDS 1865

Chlorinoides HASWELL 1880

Paramithrax (*Chlorinoides*) MIERS 1884

Prismatopus WARD 1933

また、かいめんがに属の日本産検索は次のようである。〔酒井恒(1976)講談社 248頁〕

Key to the Japanese species of the genus *Chlorinoides*

1. There is only one spine on the branchial region. The anterior angle of supraocular eave armed with two spinules. Two spines, one behind the other, on the gastric and intestinal regions and also two on cardiac region side by side.

…………… *C. harmandi*.

2. There are two branchial spines near the lateral angle; two gastric and two intestinal spines in the median line.
 - i. Anterior angle of supraocular eave armed with two spinules. Cardiac region armed with two spines side by side. Rostral spine are strongly curved outwards. Spines are knobbed at tip. C. longispines.
 - ii. Anterior angle of supraocular eave armed with a spine. There are two gastric and two branchial spines.
 - a. The spine at anterior angle of supraocular eave very small. Hepatic margin armed with a few tubercles, and the cardiac region with a single spine. C. aculeatus.
 - b. The spine at anterior angle of supraocular eave very long curved, and the cardiac region with two long spines side by side. C. tosaensis.
3. There are four branchial spines on the lateral margins, the anterior one of which is lamelli-form one gastric spine, two cardiac side by side, and also one intestinal spine. C. brevispinosus.

本種の甲面に、かぎ形に曲がった毛があって、海草やカイメン・ゴミなどをつけているので和名があることは前記した通りである。甲の鰓域は、ふくらみが強く幅が広い。額のとげは根元から強く外に向かって湾曲し、その先端はまるい小さな球のようになっている。また胃域に前後の2本、心域に左右2本、腸域に前後2本、鰓域に2本の長いとげがある。そして、いずれもその先端が球状になっている。甲長は33mm、甲幅は23mmぐらいで、額のとげは12mmぐらいである。

本種は、我が国では、古くから知られているカニであると三宅貞祥博士(1983)は記しているが、筆者には今のところ、いつ頃からどのような内容で知られるようになったかは不詳である。

歩脚の長節では、その上縁末端にとげの先が球状になっているものがある。はさみ脚の長節・腕節上縁では、うすい板状の隆起が全縁にみられる。

本種は、さし網にかかって混獲される。本種の抱卵期は4月(天草富岡町沿岸)、9~11月(相模湾荒崎沿岸)である。

倉田博(1969)は荒崎近海産カニ類の幼生Ⅳクモガニ科 東海水研報 57:81-127で本種の幼生飼育について記しているが、それに寺田正之(1981)が追証している。これらによると次のようである。

卵は1.18×0.96mmのやや大きなものである。ふ化したゾエアには、卵黄を多く蓄積しているので変態してメガロパ初期まで飼育できるという。また、甲のとげは、短い額のとげのみである。背面のとげは、低いこぶ状と倉田氏は報告しているが、寺田氏はそのようなことは認めにくいといっている。そして、側棘はなく、第2触角は外肢が三叉形のA型、尾節は、外側棘が3対で、第1棘は、長いA型である。第1~2小顎の円肢の剛毛は未発達である。第2顎の内肢は単節で毛の発達がわるく、毛式の表示が不能であるという〔三宅貞祥(1983):原色日本大型甲殻類図鑑(II) 保育社 48頁〕。

水深5～50mの岩礁底に生息する、東京湾より以南、インド洋、オーストラリア東北部沿岸に分布する。

本県では、敦賀湾・浦底で採集されている。

91. ガザミ *Portunus (Portunus) trituberculatus* (MIERS 1876)

ワタリガニともいう。節足動物，甲殻上綱，軟甲綱，十脚目，抱卵亜目，短尾下目，方頭群 Section Brachyrhyncha BORRADAILE, 1907, がざみ上科(わたりがに上科) Superfamily Portunoidea RAFINESQUE, 1815, がざみ科(わたりがに科) Family Portunidae RAFINESQUE 1815, がざみ亜科 Subfamily Portuninae STEPHENSON and CAMPBELL, 1960 がざみ属 Genus Portunus WEBER, 1795 がざみ亜属 Subgenus Portunus WEBER, 1795の一種。

額に3つの歯があることが種小名 trituberculatus になっている。この3歯うち中央の歯がやや小さい。この中央歯は、老成個体(前側縁の第9歯=ひし形の一番とがっている歯=が長さ20mm以上で甲幅が150mmぐらい)になると消滅して、額には両面の2つの鋭歯となっている。

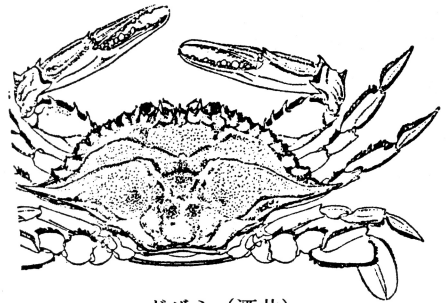
古くは、カサメ、ガサメ、Gadsame、蟻、擁剣蟹、加工散、米蝨蟀(ユウボウ)と記されている。このカ(ガ)サメの語源については、カニハサミの義などという意見

もあるが、はっきりしないと西村三郎博士(1987)はいつている。瘡(カサ)つまり堅い皮をかぶった魚(メ)の意にあるかも知れない。メはミ(身)と同様に食用となる魚介類のことである。また、酒井恒博士(1980)は、ガザミ(ワタリガニ)は風見、風がになどに関係しているという。

本種が、学問上話題になってきた経過をみるとおよそ次のようである。

1727年、エンゲルベルト・ケンペル ENGELBERT KAEMPFER(1615～1716)が“日本国の歴史” The History of Japan 中の第十一章にガザミ(Gadsameと綴っている)の図(pl 14, Fig 1. 蟻 Gadsame)がある。この図は、中村暢斎(1666)：“訓蒙図彙”(日本最初の百科図鑑)中のガザミ=外形からガザミとわかるが鋸歯の数が不適當、即ち甲肩の鋸歯の数が9個あるべきものが4～5個しかえがかれていない=の図を引用したものと思われる(酒井博士の説)。また寺島良安(1713)：“倭(和)漢三歳図会”(大規模な百科事典)の中には擁剣蟹、がざめ、和名、加工散、がざみがあって図は中村暢斎(なかむらてきさい)から転写しているという〔酒井恒(1980)〕。

一方、有名なシーボルト FRANZ VON SIEBOLD が監修者となって、アムステルダムから刊行され



ガザミ (酒井)

た“日本動物誌(Fauna Japonica)”第一巻 甲殻類(ドウ・ハーン WILHELM DE HAAN 執筆)の中に原図版 TAB IX~X PORT. (Neptunus) pelagicus LINN(和名として、ガザミ、カゼガニ、カザノリとある)と記されている。〔シーボルト：ファウナ・ヤポニカ解説 講談社(1975) 113頁〕

本種の学者命名者であるエドワード・マイアース EDWARD, J. MIERSはインド洋・太平洋のカニ、日本近海のカニの報告書はすこぶる多数ある。

イギリスの派遣したセント・ジョン艦長 Capt. H. C. St. JOHNによる日本沿岸の海底調査(1870~1877年に日本各域から朝鮮沿岸にわたってドレッジする)された。得られた標本は、すべて大英博物館に収められ、甲殻類の採集品には新種(特にハリセンボン *Pleistacantha sanctijohannis* MIERS 1879が、属名、種名とも新しく記載されている)を含む貴重な種類が多くある。そしてマイアース MIERS が“艦長・セント・ジョンによって蒐集された朝鮮および日本の沿岸の十脚甲殻類について”の論文を1879年(明治12年)にロンドンから刊行された。

また、イギリスの探検船チャレンジャー号が1872年(明治5)12月、イギリスのスポーツマス港よりインド洋~太平洋へと足かけ5年間にわたり海洋探検をした。そして同船が、1875年(明治8)4月11日東京湾にはいり、横浜でドック入りした後、5月、瀬戸内海に向かい6月5日には横浜に再入港して6月16日ホノルルに向かっている。マイアース MIERSは、同船の報告書、第17巻の中でカニ類を1886年執筆した。

カニ類の中でマイアース MIERS が命名した種名をあげるとおよそ次のようである。

1. キメンガニ *Dorippi frascone* (HERBST 1785)=*Dorippi dorsipes* MIERS, 1844
2. シンカイヘイケガニ *Ethusa abyssicola challengerii* (MIERS, 1866)
3. フタバカラップ *Calappa bicornis* MIERS, 1844

1. そでなしからっぱ属 *Genus Paracyclois* MIERS, 1886

4. ソデナシカラップ *Paracyclois milneedwardsi* MIERS, 1886
5. コツノキンセンモドキ *Mursia curtispina* MIERS, 1886
6. オオエバリア *Ebalia bituberculata* MIERS, 1879
7. マルミロッカクコブシ *Nursia minor* (MIERS, 1879)
8. ヒシガタロッカクコブシ *Nursia rhomboidali* (MIERS, 1879)

2. こぶしもどき属 *Genus Pseudophilyra* MIERS, 1879

9. コブシモドキ *Pseudophilyra tridentata* MIERS, 1879

3. まめつがに属 *Genus Paratymolus* MIERS, 1879

10. マメツブガニ *Paratymolus pubescens* MIERS, 1879
11. ムツバマメツブガニ *P. sexspinosus* MIERS, 1884



エドワード・マイアース

12. アワツブアケウス *Achaeus tuberculatus* MIERS, 1879
 13. トゲアケウス A. *spinosus* MIERS, 1879
 4. はりせんぼん属 Genus *Pleistacantha* MIERS, 1879
 14. ハリセンボン *Pleistacantha sanctijohannis* MIERS, 1879
 5. ひらあしくもがに属 Genus *Platymaia* MIERS, 1886
 15. ヒラアシクモガニモドキ *Platymaia wyvillethomsoni* MIERS, 1886.
 6. オーストンガニ属 Genus *Cyrtomaia* MIERS, 1886
 16. トゲオーストンガニ *Cyrtomaia murrayi* MIERS, 1886
 7. みみずくがに属 Genus *Cyclocoeloma* MIERS, 1880
 17. ミミズクガニ *Cyclocoeloma tuberculata* MIERS, 1880
 18. イボガニ *Sphenocarcinus stimpsoni* (MIERS, 1886)
 19. ハリツノガニ *Rochinia pulchra* (MIERS, 1886)
 20. ミミツキツノガニ R. *velutina* (MIERS, 1886)
 21. オオトガリガニ *Pisoides bidentatus* (A. MDILNE-EDWARDS, 1873)
 (=*Doclea orientalis* MIERS, 1879)

22. アシナガツノガニ
Phalangipus hystrix (MIERS, 1886)
 8. あしずりつのがに属
 Genus *Tylocarcinus* MIERS, 1879

23. コツノガニ
Chorilia longipes japonica (MIERS, 1879)
 9. とげかいめんがに属
 Genus *Entomonyx* MIERS, 1884

24. トゲカイメンガニ
Entomonyx spinosus MIERS, 1884

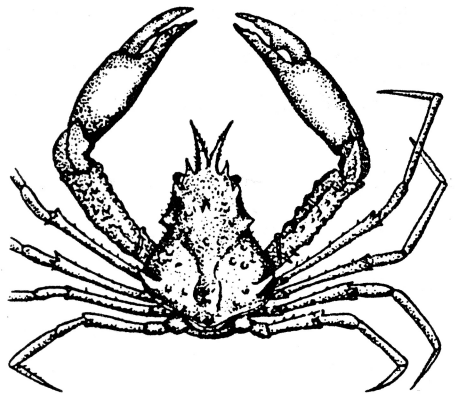
25. セスジヒシガニ *Platylambrus* (P.) *valide intermedia* (MIERS, 1879)
 10. さめはがだに属 Genus *Actaeomorpha* MIERS, 1878

26. サメハダガニ *Actaeomorpha erosa* MIERS, 1878
 27. トゲコマチガニ *Ceratocarcinus spinosus* MIERS, 1879
 28. マルガザミ *Lissocarcinus laevis* MIERS, 1886
 29. ヒメヒラツメガニ *Ovalipes iridescens* (MIERS, 1886)
 11. いつつばがざみ属 Genus *Parathranites* MIERS, 1886

30. イツツバガザミ *Parathranites orientalis* MIERS, 1886

31. ガザミ *Portunus* (P.) *trituberculatus* (MIERS, 1876) 本種

32. フタホシシシガニ *Charybdis Gonioneptunus bimaculata* (MIERS, 1886)

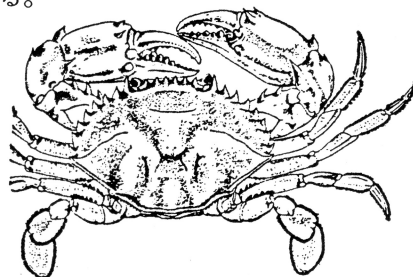


コツノガニ (中澤)

33. トゲフタバベニツケガニ *Thalamita quadrilobata* MIERS, 1884
 34. キバガニ *Heteroplax nitida* MIERS, 1879
 1. めくらがに亜科 Subfamily Rhizopinae MIERS, 1886
 1. むつあしがに科 Family Hexapodidae MIERS, 1886
 35. ムラサキチリメンガニ *Liomera bella* DANA, 1852 ; (*Carpilodes bellus* MIERS, 1886)
 36. エドワードベニオウギガニ L. *edwardsii* KOSSMANN, 1877
 (*Carpilodes edwardsii* MIERS, 1886)
 37. ヨコナガオキナガニ *Heteropilumnus integer* (MIERS, 1884)
 38. イボテガニ *Actumnus squamosus* (DE HAAN, 1835)
 (*Pilumnus dehaani* MIERS, 1879)
 39. スネナガイソガニ *Hemigrapsus longitarsis* (MIERS, 1879)
 40. サワガニ *Geothelphusa dehaani* (WHITE, 1847)
 (*Telphusa* (*Geothelphusa*) *dehaani* MIERS, 1886),

がざみ亜科 Subfamily Portuninae STEPHENSON and CAMPBELL 1960. には酒井恒博士(1976)によると日本産が次の6属あって、それらの検索表をあげている。

1. ノコギリガザミ属 Gen. *Scylla* DE HAAN, 1833 (1属1種)
 マングローブクラブまたはマッドクラブと呼ばれ東南アジアで最も重要な食用ガニ
 2. ガザミ属 Gen. *Portunus* WEBER, 1795 (本県産4種類, 5亜属18種)
 3. ホソウデガザミ属 Gen. *Lupocyclus* ADAMS and WHITE, 1848 (3種)
 4. イシガニ属 Gen. *Charybdis* DE HAAN, 1833 (本県産2種類, 5亜属16種)
 5. ベニツケガニ属 Gen. *Thalamita* LATREILLE, 1829 (本県産2種類, 21種)
 6. ミドリベニツケガニ属 Gen. *Thalamitoides* A.MILNE EDWARDS, 1869 (2種)



ノコギリガザミ (酒井)

Key to the Japanese genera of the subfamily Portuninac.

- A. The anteroexternal angl of basal antennal segment not appreciably produced, the flagellum thus standing in the orbital hiatus.
 1. Basal segment of antenna produced into a small lobule at anteroexternal angl; flagellum small. Anterolateral borders of carapace cut into nine large teeth.
 a. Surface of carapace smooth and the regions ill-defined. Propodus of chelipeds smooth and inflated *Scylla*

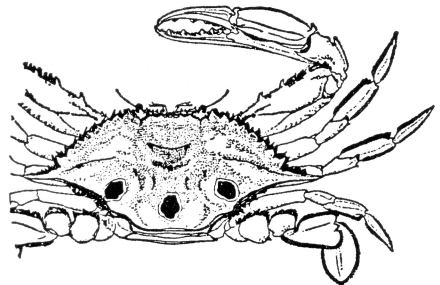
- b. Surface of carapace almost always in some way divided into regions. Propodus of chelipeds prismatic and costate Portunus
- 2. Basal segment of antenna with no distal lobule, flagellum long. Carapace little broader than long, usually rotund; anterolateral borders cut into nine teeth which are alternately large and small, the small teeth sometimes obsolescent. Lupocyclus.
- B. The anteroexternal angle of the basal antennal segment pronouncedly dilated into a lobule, which completely fills the orbital hiatus, the flagellum being completely excluded from the orbit.
 - 1. The extent of the front-orbital border is decidedly less than the greatest width of carapace. Anterolateral borders oblique and arched, cut into six teeth. Charybdis.
 - 2. The extent of the front-orbital border is not much less than the greatest width of carapace.
 - a. Anterolateral borders not markedly convergent posteriorly, cut into five teeth, the fourth of ten small or obscure. Thalamita.
 - b. Anterolateral borders strikingly convergent posteriorly, cut into four or three teeth. Thalamitoides.

がざみ属 Gen. Portunus WEBER, 1795 は次の5亜属18種に分類されるという(酒井恒博士による)。

1. ガザミ亜属 Subgen. Portunus WEBER, 1795. (日本産 4種)

イ. ジャノメガザミ Portunus (P.) sanguinolentus (HERBST, 1783)

甲面の後半部に3個の白く縁どられた紅色の丸い紋(蛇の目模様)が雌雄ともに存在する。甲長49mm, 甲幅110mm(側棘を含む); 額は4歯に分かれ, 中央の2歯がやや小さく接近している。前側縁には9歯ある。はさみ脚の長節後縁の末端にはとげがないが, その前縁には3個の大きなとげがある。♂の第一腹肢は長い。水深20~30mの砂・砂泥に生息する。古来よく知られている。熱帯水域では, 大切な食用ガニであるが, 我が国でも食用にするが, ガザミよりも味が劣るといふ。ハワイ地方では「ハオレ」と呼び広く食用にされている。

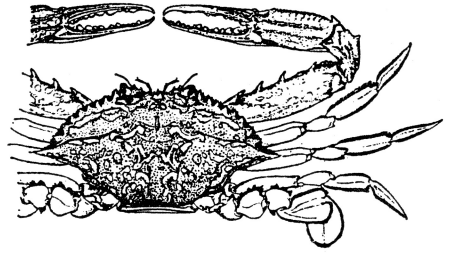


ジャノメガザミ (酒井)

秋田県以南, 東京湾以南で, インド太平洋・ハワイ沿岸に分布する。

- ロ. タイワンガザミ *Portunus* (P.) *pelagicus*
(LINNAEUS, 1758)

若狭湾で採集記録があるので、いつの日か本シリーズにとりあげるので省略する。



タイワンガザミ (酒井)

- ハ. ケブカガザミ *Portunus* (P.) *pubescens*
(DANA, 1852)

本亜属4種の中では、はるかに小形のカニで食用にならない。体全体に、褐色または黄色の毛が密生している。前側縁の9歯のうち、第9歯は著しく横に突出していない。甲長は28mm, 甲幅が45mmぐらいである。

東京湾以南の各地沿岸に普通に生息し、ハワイ・サンドイッチ諸島、オーストラリア沿岸に分布する。

二. 本種 (ガザミ)

2. イボガザミ亜属 **Subgen. *Monomia* GISTEL, 1848** (日本産5種)

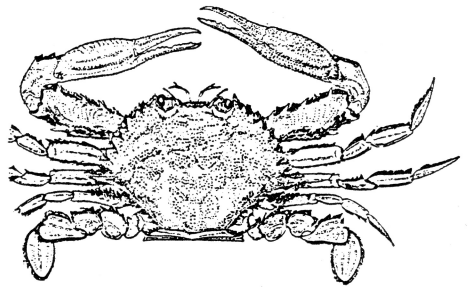
- イ. ケブカイボガザミ *Portunus* (*Monomia*) *tenuipes* (DE HAAN, 1835)

甲の幅に対し、長さが小さく、甲面にはベルベット状の毛が密生している。顆粒の集まりで甲域の区別がわずかにみられる。歩脚・はさみ脚は、甲の大きさに比べて同属の他種よりもはるかに長い。はさみ脚の長節後縁末端に1つのとげがある。甲長は26.5mm, 甲幅は46.5mmぐらい。紀伊南部以南、フィリピン、オーストラリア、アンダマン海に分布する。

- ロ. イボガザミ *Portunus* (*Monomia*)
gladiator FABRICIUS, 1798

本シリーズ No. 7ですすでに記載済み。

- ハ. ヒメイボガザミ *Portunus* (*Monomia*)
argentatus (WHITE,
1847)



イボガザミ (酒井)

前種によく似ているが、やや小形(甲長17.6mm, 甲幅32.3mmぐらい)である。額中央の2歯ははるかに小さい。腹部第2節にある横の稜線は強く、そしてはさみ脚の掌部の外側下縁近くにある真珠光沢の強い稜線になっているのが特長である。♂の腹部第6節の両縁は強く張り出している。前種と混棲していて相模湾以南からインド-太平洋に広く分布する。

- 二. ツブイボガザミ *Portunus* (*Monomia*) *petreus* (ALCOCK, 1899)

イボガザミに類似しているが、甲面の顆粒の小域が著しく高低がある。はさみ脚の掌節には、外面の末端近くに1個の小さなとげがある。相模湾以南、ラッカディブ島(原産地)、マダガスカル島に分布する。

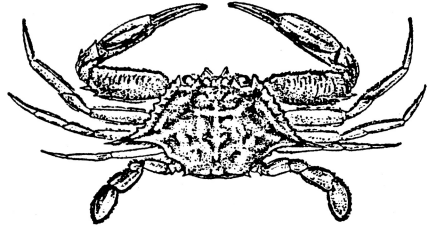
- ホ. ツノナシイボガザミ *Portunus* (*Monomia*) *brocki* (DE MAN, 1887)

本種はALCOCK(1889)によるとヒメガザミ亜属(*Xiphonectes*)に分類されていたが、酒井恒博士

(1976)では *Monomia* に分類している。すなわち、甲の後縁の両隅は、角をなしているのに対し *Xiphonectes* ではとげになっている。したがって本種はとげになっていないから酒井博士は、*Monomia* に分類したと報告している。額には、歯がなく横にまっすぐに切断された形になっている。甲長は14mm, 甲幅は23.5mm ぐらい。沖縄以南, シンガポール, オーストラリアなどに分布する。

3. ヒメガザミ亜属 Subgen. *Xiphonectes* A.

MILNE EDWARDS, 1873 (日本産5種)



ヒメガザミ (酒井)

イ. ヒメガザミ *Portunus* (*Xiphonectes*) *hastatoides* (FABRICIUS, 1798)

たかす海岸で採集記録があるので、いつの日か本シリーズにとりあげるので省略する。

ロ. テナガヒメガザミ *Portunus* (*Xiphonectes*) *longispinosus* (DANA, 1852)

小形種(甲長は7.5mm, 側棘を含む甲幅が19mm ぐらい)で、甲は強く平圧されている。額は、4つの歯があって中央の2歯は相接し、きわめて小形である。はさみ脚は、甲長(7.5mm ぐらい)の2.5倍もあって、すこぶる長く掌節の末端には2つのとげがならんでいる。伊豆半島以南, ハワイ, セイロン, インド, ペルシア湾などに分布する。

ハ. *Portunus* (*Xiphonectes*) *longispinosus bidens* (LAURIE, 1906)

テナガヒメガザミ亜種。はさみ脚は、短くて強大である。また、その掌節には、ただ1つのとげが内側の末端にあるのみである。甲長は7.5mm, 甲幅は15mm ぐらい。相模湾以南, セイロン(原産地)などに分布する。

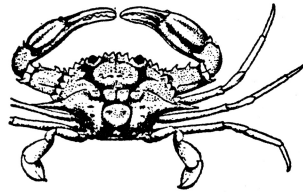
ニ. ツノヒメガザミ *Portunus* (*Xiphonectes*) *iranjae* CROSNIER, 1962

マダガスカル島沿岸が原産地で1962年CROSNIERが記載した小形(甲長が13mm, 甲幅が28mm ぐらい)種である。奄美諸島, マダガスカル島などに分布する。

ホ. ナキガザミ *Portunus* (*Xiphonectes*)

nipponensis (SAKAI, 1938)

中形の大きさ(甲長31mm, 甲幅は59mm ぐらい)で、みごとな発音器(まさつ音)をもつのが特色である。水深15~50mの岩礁底に生息する。甲の前側縁の下側に一列に並んだ粒と、はさみ脚の長節の二列の粒とこすり合わせて発音する。紀伊半島以南, ボルネオ島に分布する。



ナキガザミ (酒井)



発音装置

4. サメハダヒメガザミ亜属 Subgen. *Cycloachelous* WARD, 1942 (日本産3種)

イ. サメハダヒメガザミ *Portunus* (*Cycloachelous*) *granulatus* (H. MIERS EDWARD, 1834)

小形(甲長は15.5mm, 甲幅は23mmぐらい)のガザミで, 甲面は平圧されているが, 甲域の分割は小さな粒ではっきりしている。サンゴ礁の砂地に多く生息し体色は地味である。水深30~120mの砂底, 貝片などのある所にも生息している。額の4つの歯は, 中央の2つが小さい。相模湾以南, ハワイ, オーストラリア, インド, 紅海などに広く分布する。

ロ. メダマヒメガザミ *Portunus (Cycloachelous) orbitosinus* RATHBUN, 1911

甲の前側縁の9歯のうち, 第9歯がわずかにその前の歯よりも大きい。眼, 眼窩が大きい。♂の腹部第6節は, 両側でまろく張り出し, 節全体がまるみのあるひし形にみえる。相模湾以南, オーストラリア, セーシェル諸島などに分布する。

ハ. ヨロンヒメガザミ *Portunus (Cycloachelous) yoronensis* SAKAI, 1974.

奄美諸島の与論島沿岸から採集された。縁は鋭い4歯からなり, 甲の前側縁の9歯は鋭くとがり, すべて同じ大きさである。♂の腹部は, 輪かくが三角形で, その第1腹肢は独特で, 太くて短く先端がまるい小面をなしている。甲長は13.5mm, 甲幅は17mmぐらいである。

5. テナガイボガザミ亜属 *Subgen. Lupocycloporus* ALCOCK, 1899 (日本産1種のみ)

イ. テナガイボガザミ *Portunus (Lupocycloporus) aburatsubo* (BALSS, 1922)

油壺(三崎)の名が学名につけてあるが, 原産地は相模湾西部の福浦(湯ヶ原町)と記されている。前側縁の9歯のうち第9歯は, その前の歯よりも大形になっている。はさみ脚の長節はすこぶる長くその前縁には7個ほどのとげが配列している。掌節は長節同様にすこぶる長い。甲長は17mm, 甲幅は30mmぐらい。福浦沿岸に分布する。

本種 *Portunus (Portunus) trituberculatus* (MIERS, 1870)はタイワンガザミ *Portunus (Portunus) pelagicus* (LINNAEUS, 1758)ほど甲の粒々と雲紋模様は著しくない。額歯の外側に額歯と同じ大きさの眼上棘 Antorbital spine がある。眼孔前縁に, 2ヶ所に切れこみがあって幅広い間棘 Intercalated spine がある。間棘の前縁はわずかにくぼむ。眼後棘 Postorbital spine は前側縁 Anterolateral border, margin の第1棘となり, 眼上棘より大きい。眼孔後縁の内角に大きなとげが1個突起する。口前部 Epistome の中央の突起は長いとげとなり前方に突出している。背面からみると, 甲前縁中央に, 口前部中央棘, その両側に額歯 Rostrum, Rostral spine つづいて眼上棘, 眼孔下縁が認められる。甲の前側縁には, 眼後棘 Postorbital spine, tooth を含めて9歯の鋸歯が列生している。その第9歯は大形で, 側方に突出している。眼後棘と第9歯との間にある鋸歯は, 同じ形で前方3歯は後方4歯より小さい。甲の表面は, 平滑にみえるが, 微細な顆粒が散在している。甲域の区画は, 明らかである。後胃域 Metagastric region の中央に1個, 心域 Cardiac region に左右1対のこぶ状突起がはっきりみられる。前側縁の第9歯の中央から甲表面に, 隆起線が横走する。はさみ脚の長節前縁に, 同じ大きさの大きなとげが4個, 腕節の内外縁にそれぞれ1個のとげ, 掌部上面の末端に2個のとげと基部に1個のとげがある。

抱卵期は4月中旬から8月までである。第2触角は, B4型, 尾節はA2型である。AIKAWA (1937)によれば, 毛式は6-1, 4・2(6), 4-1-1である。ゾエアは4期あるが飼育すると

5期を認められるという〔八塚(1957)；倉田(1975)〕。幼生の発生には変異の多いことが予想される。

本種の生活史については、笠岡(瀬戸内海)産の調査が一般に知られている。それによると次のようである〔大島信夫(1938)〕。毎年、秋頃(9～11月)♀は甲幅130～160mmに達すると交尾する。その最盛期は10～11月である。そして、水深10mほどの砂底で雌雄とも、脱皮後の甲が軟らかな間に交尾する。12～3月の冬期は、水深20mほどの砂底(水温10℃)にもぐって越冬する。♀は精子を貯精のうに貯えたまま冬を越す。5～6月の初夏には、水深5mほどの砂底に移動して第1回の産卵(この卵を一番子という)をする。第2回の産卵(二番子)は少数で7～8月である。卵は直径0.3mmにすぎないが、甲幅180mmで200万粒；220mmでは400万粒産卵する。抱卵は2～3週間つづく。一番子は9～10月の秋頃までには、甲幅130～160mmに成長する。二番子は1年後に成体となる。寿命は、満2年と推定され、第2回の産卵後は死亡する。しかし、稀には3年以上生きのびる個体もある。小さいときから共食いする性質がある。

ガザミ類の泳ぎは次のようである。甲は両側方に延長してすどく尖り遊泳にきわめて適した形となっている。歩脚の対がかい状になっていてこれを前後に動かして水をかき横方に進む。ろで漕ぐのと同じ理屈で揚力を利用している。この遊泳のための歩脚は、甲の背面よりも上面を動かすので他の脚とぶつかることはない。左右に早く泳げるように、甲が横方にとがり流線形になった種類では、遊泳速度は毎秒1mを越える。水中での運動速度としては、かなりのもので逃げる魚を追いかけてつかまえることさえある。横方に直進するだけでなく、ジグザグに泳いだり、時には後方に進んだりもする。

本種は、浅海の砂泥底に多く生息している。昼はもぐって触覚と眼だけを砂上に出し、使った水と共に砂を吹きあげている。夜は餌を求めて泳ぎ出る。光にも集まる。昼は手操網・夜は刺し網でとる。食性は肉食性である。

カニ漁は、晩春から初冬までつづき8～10月が盛期で市場に出まわる季節でもある。しかし、夏季に脱皮する個体が多く、肉が少なく味もよくない。秋季、交尾後のカニで深所へ移動を始める個体がうまい。手にのせて、どしりと重量感のある個体を買って食べると最高の味を楽しめることができる。秋祭りにカニ料理を好んで食べる地方も多い。三河湾、瀬戸内海、有明海などに多く採れ、生きたまま、または冷凍のものとして出荷される。

料理の一例として、「魚 日本さかなづくし一集 講談社(1985)」126頁にあるものを記す。

カニ類の中では、身は少ないが柔らかくてしっとりとした甘みがある。また、卵巣、みそは味がよいので珍重される。殻からでるうまみを利用して、ぶつ切りにして具足煮、なべ物にしたりみそ汁にしても喜ばれる。ガザミの甲ら蒸し(甲らを器代わりに使い、カニの身と野菜、卵の味の調和を楽しむ)、ガザミの黄身衣揚げ(はさみについている太い身を使い、形の面白さを出す)などがある。他のカニ類と比べると、グリシン Glycine、アラニン Alanine など甘みを与えるアミノ酸は、やや少ないが、各種の遊離アミノ酸、ヌクレオチド Nucleotide を含み、ベタイン Betaine 量も豊富でうまみがある。栄養成分値は、水分78、タンパク質19、脂質0.9、灰分2.1でカロリー値は89である。

水産試験場・種苗センターによって放流が行われている。出荷を調整する畜養も、山口県・熊本県などでは実施している。そして近年稚ガニまでの養殖も研究されている。

国語大辞典 小学館(1981)479頁には、がざみについての次のように記載されている。

がざみ〔蝸蚌〕(「かざみ」「がさみ」とも)ワタリガニ科の大形のガニ。青森湾以南から台湾付近の浅海に分布する。甲羅は横に幅広い菱形で、甲長約7cm, 甲幅15cmぐらい。はさみは強大で最後の歩脚は扁平で遊泳脚となる。雄は青緑色で、雌は暗紫色または暗褐色。昼は砂泥にかくれ、夜間に活動する。かに料理として珍重される。わたりがに。がざめともいう。

がざみは、①風見 ②汗衫とある。蝸蚌はコウボウと読む。蝸は虫十音符酋シュウ(細くひきしまる)の合意兼形声文字からできている。蚌は虫十音符牟ボウ(二謀。何かを求める)の合意兼形声文字からできている。蝸蚌は、海辺にいるかにの一種で大きなはさみでえさを求める—がざみ—とある。

函館以南から台湾の水深5~30mの砂・砂泥底に多く、内湾または内湾近くに生息する。東京湾、三河湾、瀬戸内海、有明海、八代海などは有名な産地である。

県内では、若狭湾沖に普通にみられる。県産ガニ類の中で本種は約4.5%漁獲高を示す。

(つづく)